

(9) カウンターロープ

支点の回収技術

レスキュー活動での支点回収は、非常に高度な技術に属するのでガイド以外で使用することはお勧めできない。ここで記述するのは、その中でも、もっとも難しい**カウンターロープの支点回収技術**である。これは協会の桐生茂会員によって考案されている。

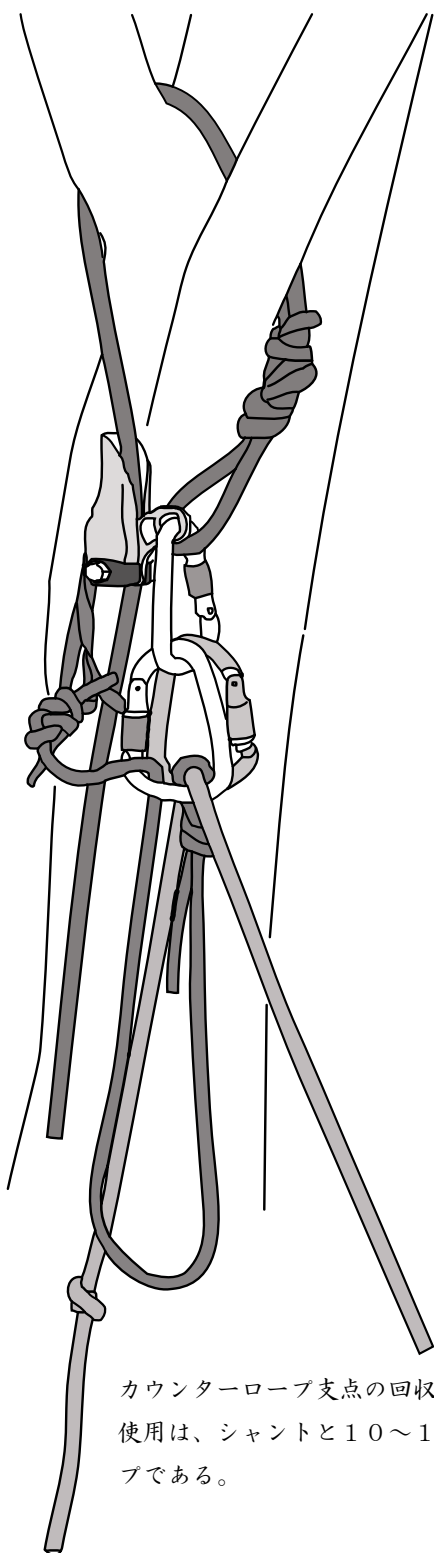
通しカラビナ二枚の間にセットする。

(回収)

カウンターロープとして使用した後に、引き抜きの端部に結び目をつけて引くと、カラビナ、支点用のロープ全てが回収出来る。

左図は、シャントを使用した回収システムで、ロープ径が限定される(10〜11mm径)ことに注意する。

同様のことが、シェーズガンスの場合にも行うことが出来る。この際には細引き(カウンター)に使用するのでダイニーマ製がよい)も使用できる。下図がその例である。



カウンターロープ支点の回収技術 ①
使用は、シャントと10〜11φのロープである。

見本

カウンターロープ支点の回収技術 ②

シェーズガンスを利用したシステム。この場合には細引きの使用も可能である。しかし、カウンター支点として使用するには、ダイニーマ製の荷重強度に耐えうるものを使用しなくてはならない。

